



国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
 電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
 97.9.29 No. 4667

第25回定期大会開催!

委員長あいさつ要旨

本大会は、三つの大きな節目のなかで開催されている。それは、①新ガイドラインの策定という大きな情勢の節目、②十年間の闘いの全過程のなかで

二つに、JR結託体制との闘い

本大会にむけて、三點ほど提起したい。一つは、今はどういう情勢か、どういう認識にたつかと

恒常的スト体制」「JR総連解体一組織拡大」「全国にはばたこう運動」の三大方針を貫いて

九月二八日、動労千葉第二五回定期大会を鴨川市・鴨川館において開会。

メイン・スローガンは、正念

場の国鉄闘争勝利に向けて、「

反転攻勢の闘いに起とう! 全組員の力を結集して新しい世代

の動労千葉を創りあげよう! 戰争反対の声を全国から結集

し、新ガイドラインー有事体制

攻撃をはね返そう! 大失業と戦

争の時代に抗する労働運動の新

しい潮流を創りあげよう!

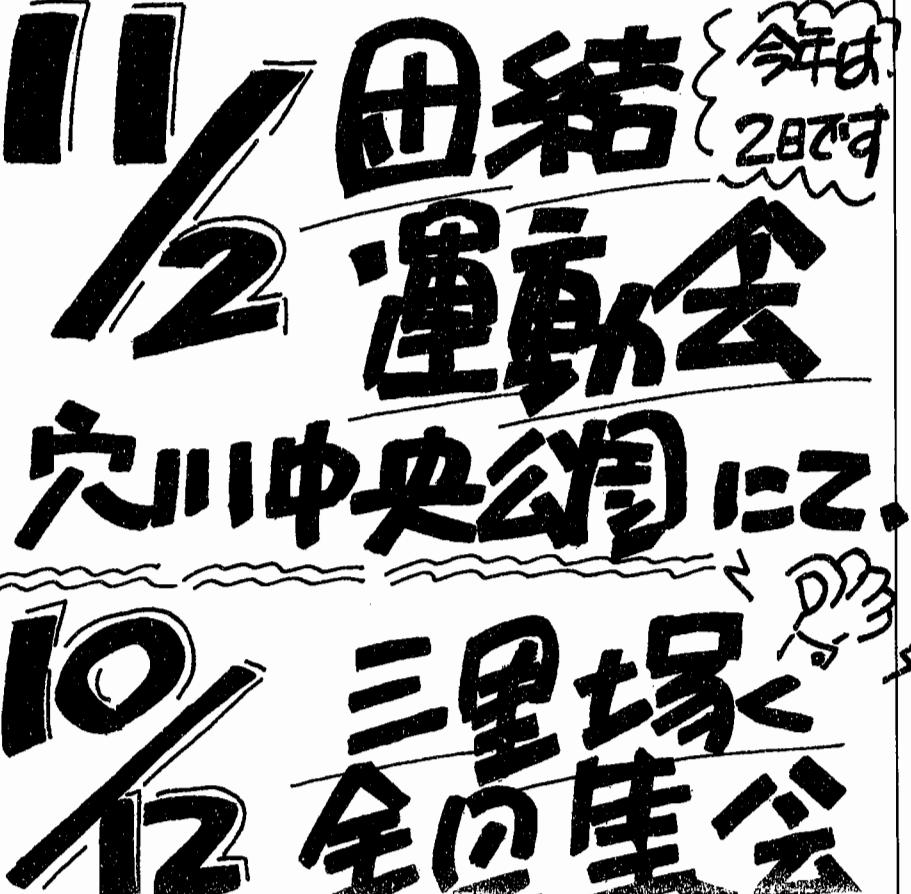
も最大の正念場を迎えた国鉄闘争の節目、③そして、動労千葉自身にとっても、動労千葉を牽引する代表的な人格であった水野・山口両氏の勇退という大

大きな節目の中で…

しかし、戦後初めてかちとられた動労千葉の公労法解雇撤回は、大きな展望を見せている。本体の組合員がどう闘うのかが問題なのだ。

また、二八名の公労法解雇の全面撤回をかちとするという画期的な勝利の上に開催されている。JR機関区支部・的場代議員を議長に選出。中野委員長あいさつ(要旨別掲)、千葉労組会議・広田事務局次長、部落解放同盟全国連・高橋共闘部長、顧問弁護団・葉山先生、動労千葉家族会・佐藤会長、動労千葉議員団・中江船橋市議をはじめとする来賓あいさつをうけ、決戦の三里塚から、反対同盟のメッセージ及び、国労千葉地本などからの祝電が紹介された(全部の報告は次号の日刊にて)。

大きな節目だ。



本大会にむけて、三點ほど提起したい。一つは、今はどういう情勢か、どういう認識にたつかと

いうことだ。九月二四日、日米安保ガイドラインの見直しの合意が行なわれた。世界第一と第二の大

国が手を結んで戦争を行なう宣言をした。日本が戦後初めて、国境を越えて戦争することを内外に宣言したということだ。事実上の安保条約の改訂でありながら、橋本は「行政上の問題だから国会で論議はない」といつている。しかし、これに基づいて国の在り方も変わってくる。労働組合が闘えなくなつたとき、それは「戦前」を意味する。戦争政策に抗する運動の中軸に労働組合がある。動労千葉の運動が勝つためにも、労働運動の新しい潮流を作り上げなければならない。再来年は、動労千葉結成二〇周年に向けて名実ともに新しい世代の動労千葉をつくつていこう。

二つに、日本が戦後初めて、国境を越えて戦争することを内外に宣言したことだ。事実上の安保条約の改訂でありながら、橋本は「行政上の問題だから国会で論議はない」といつている。しかし、これに基づいて国の在り方も変わってくる。労働組合が闘えなくなつたとき、それは「戦前」を意味する。戦争政策に抗する運動の中軸に労働組合がある。動労千葉の運動が勝つためにも、労働運動の新しい潮流を作り上げなければならない。再来年は、動労千葉結成二〇周年に向けて名実ともに新しい世代の動労千葉をつくつていこう。

三つに、本大会で水野、山口両氏が引退した。数年の間に動労千葉が新しく生まれ変わらなければならぬ。再来年は、動労千葉結成二〇周年に向けて名実ともに新しい世代の動労千葉をつくつていこう。

大会のハイライトである解雇者への決意表明、そして、水野さん、山口さん、新小岩支部・武井さん、若林さん、幕張支部・白井さんにそれぞれ、永年の功績を讃美し、組合員表彰がされた(内容は別号の日刊にて)。

以上で第一日目の議事は無事終了。今日は二日目、全代議員発表、意見、質問討論で大会の大成功をかちとろう!